

平成26年

季刊

秋季号

Vol.51

亜東



台湾訪問団集合写真



一般社団法人亜東親善協会

The East Asian Friendship Association

一般社団法人亜東親善協会の概要

名称 一般社団法人亜東親善協会

(英名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び幹旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の幹旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任されました。

二〇一三年二月、安倍会長の意を受け、会長代行・大江康弘参議院議員が会長を引き継がれ就任されました。現在、領土問題等の紛争、北朝鮮の核問題、発展に伴う水・エネルギー環境問題なども山積しております。

アジアの繁栄と平和に貢献するために、本協会員一同、役員陣容を強化し、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けております。

季刊「亜東」平成二六年 秋季号・目次

一般社団法人亜東親善協会・概要・変遷	二頁
目次・協会役員名簿	三頁
更なる台湾との絆に向けて	四頁
理事就任にあたって	六頁
『ご縁』	七頁
理事就任にあたって	九頁
『日台交流に尽力します！』	一二頁
台北駐日経済文化代表處政務部	一五頁
平成二十六年台湾訪問の旅	一六頁
馬英九総統が大江康弘・会長ら	一七頁
「亜東親善協会」の訪問団一行と会見	
台湾概況	
事務局だより	

平成26年 5月12日現在

一般社団法人亜東親善協会役員名簿

名誉会長（理事以外）	1名	玉澤徳一郎							
参 与（理事以外）	1名	橋本 靖男							
会 長（代表理事）	1名	大江 康弘							
副 会 長（理 事）	4名	張 建国	張 碧華						
		山本 順三	千葉 健司						
専務理事	1名	崎谷 秀彦							
業務執行理事	張 建国	（副会長兼務）							
業務執行理事	赤松 則宏								
業務執行理事	千葉 健司	（副会長兼務）							
業務執行理事	藤山 雅康								
理 事	19名								
小松 省二	仲谷 俊郎	新井 秀子	南部 晴彦	益山 茂	松永理恵子				
多 忠和	三浦 信行	並木 正芳	伊野 雅晴	柴田 徳文	山口 裕志				
森 康郎	池本 好伸	笹岡 恭亮	矢野 哲朗	鶴保 庸介	永島 剛士				
小山 博史									
監 事	2名	莊司 隆一	李 ハロルド						
事 務 局		崎谷 秀彦							
		李 孔曉							
		一般社団法人 亜東親善協会							

更なる台湾との絆に向けて

会長 大江 康弘

皆さん、お元気ですか。

いつも私共「重東親善協会」の活動に、多大なご支援とご協力をいただいておりますことに、心より感謝と御礼を申し上げます。

おかげさまで、一般社団法人に移行して二年目を迎えることができました。又、今年度より新たに八名の新理事にも加わっていただき、協会も更に重厚な布陣で積極的に活動しております。

さて、私はかねがね、外交の基本は「民間外交」にあるとの思いで行動してきました。これは、国際政治の現場や至るところで、民間の皆さんの地道な活動のおかげで、相互間に勃発する齟齬や溝を埋め、垣根を低くしていただけたかを痛感してきたからです。

人間社会においては、信頼関係は一朝一夕には構築できませんが、崩れる時は一瞬です。況や、国と国の関係になればなおさらです。

かつて一九世紀の英国の首相であったパーマストーンは、「国家には永遠の同盟もなければ永遠の敵もない。あるのは国益だけである!」

と喝破したように、国と国の関係は国益がからみ、その中で国民の最大限の「安全と安心と幸福」が担保する事が目的で

すから、そう容易いことではありません。^{たやす}

絶えず厳しい条件がいっぱい横たわる環境の中で、国家間の関係が構築されていくのです。

まだ、皆様の記憶にも新しいと思いますが、一九八九年現在のロシア、かつてのソビエト連邦共和国が崩壊した時には、「これで、やっと平和な世界が訪れる」と誰もが確信したと思います。しかし現状はいかがでしょうか。世界は、アメリカ主導の民主主義国家体制に集約されませんでした。人間の欲望や要求は



なかなか簡単には平和を認めてくれません。まして国・民族・宗教等々、長い歴史の中で様々な争いの種は存在しており、今もこの瞬間に紛争が続いているのが現実です。

しかし、そのような国際社会にあって中華民国（台湾）と日本と



は、両国の先人、先輩のご尽力のおかげで、今日のすばらしい関係を構築することができました。

最近では、国際情勢の変化故か、「亜東親善協会とはどんな協会ですか？」とよく聞かれます。この機会を積極的に活用し、私共の協会の目的や活動スタンスについて、より多くの方々に発信していきたいと思っています。

来年で協会設立から七〇年が経過しようとしています。先の不幸な大戦後、アジアでの共産主義国家（ソ連、中華人民共和国、北朝鮮等）の台頭とその脅威から、民主主義国家の礎を確保せんと自負する日本国にあって、積極的にその責任を果たしていこうとの決意で設立したのが、我々の亜東親善協会であります。

そして、設立当初は民主主義を理念として、日本を取り巻

くアジア地域の平和を希求していくために活動していくという事が主たる目的でした。

しかし、ニクソンショックがあったとは云え、一九七二年、当時の田中角栄内閣が突然、中華人民共和国と国交樹立し、それに伴って永年友好関係を築いてきた中華民国とは国交断絶という暴挙は正に青天の霹靂であり、しかも中華民国の国連からの追放という歴史的な屈辱は、当時の日本人や我々の諸先輩方にとっては、想像を越えた辛い出来事でありました。

その後の日本は、「中国へと草木もなびく」流れでありましたが、諸先輩方の、国際社会の中において国家として認めてもらえない中華民国（台湾）との外交関係を何があっても引き続いて構築していこうとの決意で、協会は以後、同じ価値観（民主・自由・人権・法治）を持つ国家である中華民国（台湾）の立場を尊重し、国際空間を少しでも広げて国際的な立場を強くし共に、行動や活動がやっていければとの決意に特化して、両国の友好親善及び発展のため活動して参りました。

その事実とは、中華民国（台湾）出身の留日の皆さんが多く会員として入っていただき、ともに活動している事からもご理解いただけていると思います。

私共、日本にとって、かけがえのない国である中華民国（台湾）との更なる絆を深め、強めていくためにも、皆さんのご協力をお願い申し上げる次第です。

そして、この活動をもっと日本国中に広げていくために、私は皆様のお知恵を拝借しながら、協会の支部を西日本に設立しようとの構想も持っております。これと並行して、もっと日本国内の各地方自治体（県・市町村）との交流を広げていかねばなりません。今現在、姉妹都市の締結はわずかに一四都市、経済友好関係を結んでいるのは右記を含めてもわずかに三〇都市であります。

因みに、昨年六月には、私が仲人役で私の生まれ故郷の和歌山県白浜町の白浜温泉と中華民国宜蘭県の礁溪温泉とで姉妹温泉の提携をしました。

おかげさまで、現在和歌山県には年間、約五万人の台湾の皆さんが訪問してくれています。当面は、この倍の一〇万人目標で今、関係者の皆さんがご尽力してくれています。

また、昨年、悲願であった我国の訪日インバウンドが一〇〇〇万人を達成できたのはひとえに台湾からの訪日数が約二七〇万人という多数の皆さんが背中を押してくれたからこそその達成であります。本当にありがたい限りです。

今後は、もっと民間レベル、国民一人一人に中華民国（台湾）との交流の必要性、大切さ重要性を説明しながら私共の協会の目的に近づけていけたらと念じています。

これからも皆さまには私共協会の主旨、目的をご理解いただきご指導ご協力を心よりお願い申し上げる次第です。

理事就任にあたって

『ご縁』



株式会社永島製作所

代表取締役 永島 剛士

私にとって二〇一四年は、公私にわたり変化の年になり、余すこと二ヶ月となりました。

年初、想像すら出来なかった海外出張、肩身が狭くなる程の各種NPO法人における役職就任など多忙な日々を現在過ごしております。

中でも、台湾との交流団体である本会（亜東親善協会）の理事就任なんぞ、頭の片隅にもありませんでした。

ここで、本会との関わりに少しお話をしてみたいと思います。さかのぼること約二〇年前、若かりし頃永島製作所の取引先であったK社のK社長と、当時はK社でお仕事をしておりました本会の理事南部さんと、私が石川県からの出張度、花の銀座で杯を重ね三人で夜な夜な徘徊をしておりました。

その後、数年間は南部さんとの交流も途絶えていた中、久しぶりの電話で玉澤先生の秘書をしている旨を知りびっくりしたことを、今も鮮明に覚えています。

その後、時折、亜東親善協会のパーティや中華民国の国慶節の記念祝賀会に参加して、台湾の方々のエネルギーあふれるパワーを肌持って感じ、また台湾に関わる先輩方々との数

多くの出会いの中、このたび、玉澤名誉会長、大江会長との不思議なご縁や絆で、本年度理事として就任することと相成りました。私自身、台湾と日本との関係において忘れてはならない先人、技師八田與一大先輩の出身の一人として、一般社団法人亜東親善協会との関わりの中で少しでも今後の日本と台湾との交流の礎を作っていければと思う日々であります。

出会いやご縁とは不思議なもので、ひとつの出来事から「無から有」が本当に生まれてきます。天が授けてくれたこのご縁を大切にして、真の意味での「良友雅集旭日東昇」を築き上げる為、これからも自己研鑽に勤めて行きたいと思えます。

理事就任にあたって

『日台交流に尽力します!』



池本 好伸

このたび、伝統ある亜東親善協会の理事を拝命することになりました。諸先輩がたが築かれた日本と台湾との友好親善をより一層発展することができるよう、努力する

所存でございます。ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

上げます。

小生は、今から二〇年前の一九九四年から一九九八年に、初代の全日空台北支店長として、台湾で勤務いたしました。中国との関係上、当時の社名は「エア・ニッポン（台湾では日空航空）」でした。当時の新規路線の就航には、二国間（日本と台湾）の航空協定であるものにも関わらず、中国との調整が必要でありました。

一九九四年一二月に全日空初の台湾路線を開設し、福岡―台北間を台湾のエバー航空と共同運航という形態で就航しました。

在任中、台湾の方々から本当にお世話になりました。仕事で、街中で、紹介者を通じて等々、多くの台湾の方々を知り合いました。その台湾の方々が持つておられる「心の温かさ」「優しさ」「心配り」に出会い、『台湾にぞっこん惚れ込みました』。

今では、

台湾に、たくさん『好朋友（ハオポンヨウ・親友）』がいます。

自称、日本一の『哈台族（ハータイズー・台湾大好き人間）』です。

全日空台北支店長を経験した後にも、台湾との関わりがある仕事をやってきました。釧路空港ビルの役員としての北海道勤務時代（二〇〇一年～二〇〇五年）には、北海道各地の空港（札幌・函館・釧路・旭川・帯広等）に台湾からのチャーター便誘致に励みました。台湾のエバー航空・チャイナエアライン・ユニー航空・マンダリン航空や旅行代理店にもたびたび訪問していました。

台湾の皆さまに自然豊富な北海道の良さをご認識いただいたことを嬉しく思っています。数多くのチャーター便の実績を積みつつ、現在では、台湾と北海道の間には、桃園―札幌、桃園―函館、桃園―旭川の定期便が就航しています。

全日空での最後の仕事となった、本社勤務時（二〇〇六年～二〇〇七年）には、日本の羽田空港と台湾の松山空港との路線実現に向け、関係先との調整折衝をやりました。

当時は、この路線の実現には否定的な見解が多く、苦労が多かったですが、羽田―松山の路線は二〇一〇年一〇月に就航することができました。

羽田空港のスロット（発着枠）不足もあり、現在では羽田―松山路線は両国にとって、貴重な航空路線になっています。

その後、世界的な航空自由化の流れにそって、日本と台湾

の間には、二〇一一年一月にオープンスカイ（航空自由化）協定が締結され、今では両国の各地の空港には、原則自由に乗り入れができるようになっていきます。現在では、日本の二〇の空港と台湾の桃園・松山・高雄の空港が結ばれ、週に四六〇便もの定期便が就航しています。

その他に日本各地の空港に台湾からのチャーター便も就航しています。

現役時代には、航空業界を通じて、日本と台湾との交流に多少なりにも関わることが出来たことを嬉しく思う次第です。

全日空を退職した後は、ボランティアで日本と台湾との交流に種々尽力しております。北海道で展開している大手リゾートホテルのお手伝いもしており、台湾の人たちが大好きな北海道にもたくさんの方が来ていただいております。又、台湾企業と提携希望されている日本企業のお手伝いもしています。

今後とも、亜東親善協会の皆さまと共に、より一層両国の発展に尽力したいと思っております。どうかよろしく願います。

台北駐日經濟文化代表處 政務部

日頃、当協会が大変お世話になっております政務部の部長さんが七月の人事移動により前任の周学佑氏の後任として張淑玲さんがご就任されたのでご紹介申し上げます。

【張淑玲さんプロフィール】



一九六八年八月一三日

台北市生まれ

現職 台北駐日經濟文化代表處

政務部部長

学歴 淡江大学法学修士

(一九九四年)

主な経歴

一九九三年 中華民國僑務委員長 秘書官

一九九六年 外務大臣 秘書官

一九九七年～一九九八年 日本慶応義塾大学に留学

一九九八年 亜東関係協会 会長秘書

二〇〇一年 台北駐日經濟文化代表處 業務部 課長、首席課長

二〇〇七年 亜東関係協会 秘書組組長 文教組組長

二〇一〇年 台北駐日經濟文化代表處 政務部首席課長

二〇一三年 同 政務部次長

二〇一四年七月 同 政務部部長

資格 国家公務員高等試験 僑務行政全国トップ合格(一九九三年)

国家公務員高等試験 一般人事行政合格(一九九四年)

外交領事官高等試験合格(一九九六年)

インタビュー(二〇一四・一〇・二一)



Q. ご経歴を教えてください。

A. 淡江大学の大学院二年生の時に台湾の国家公務員試験に合格しました。現在、三つの国家公務員資格を持っています。国家公務員として、僑務委員会の大臣秘書官の仕事をしています。ずっと日本畑一筋です。第一回目の日本勤務は二〇〇一年から二〇〇七年に代表處業務部でした。二〇一〇年から二回目の日本勤務をしています。

Q. 日本では、慶応大学に留学されたのですね？

A. 国家公務員の立場で、慶応大学で勉強することができました。留学中、時間の余裕がある時には、日本全国を旅行し、多くの日本の方とふれあい、広く見聞を広めることができるように心掛けました。

その中でも、友人の紹介で北海道網走郡津別町を訪ねた時には、町長の佐藤多一さんに大変お世話になり、二週間ホームステイさせていただきました。今でも、家族ぐるみのお付き合いをさせていただいています。スキーも学びました。津別町長の佐藤多一さんは私にとって『日本のお父さん』です。



Q. 佐藤町長さんは、台湾との交

流も精力的にやっておられると聞いていますが……？

A. 津別町は町面積の八六％を森

林が占め、林業が発達しています。又、農耕も盛んです。

台湾彰化県の二水郷と友好都市締結をされており、積極的

に交流されています。佐藤町長さんのご尽力のおかげです。

Q. 対日関係については……？

ここ数年の台湾と日本との関係は素晴らしいと思っています。今年六月からの国立故宮博物院展の東京での開催は良かったと思います。一〇月七日からは、福岡で開催されています。

故宮文物の東京展が大成功だったのと福岡でも好評を博しています。次は二〇一六年に東京国立博物館・九州国立博物館の文物を台湾で展示することも予定しています。来年一二月に開館予定の「故宮南院」(嘉義県)で、日本の国宝や重要文化財を展示される予定になっています。

宝塚歌劇団の台湾公演も良かったですね。「日華議員懇談会」の諸先生方、宝塚出身の扇千景先生、松あきら先生、鳩山元首相の奥様らもご支援くださいました。チケットも大好評で完売しました。来年八月には二回目の

台湾公演があります。

台日漁業協議の調印も長年の台日間の懸案を解決し、多くの台日両国民から評価をもらっています。同協議は「東シナ海平和イニシアチブ」の精神の具体的な実践であり、米国と国際社会からも普遍的な支持を得ています。

両国の観光ノービザ措置、特に「オープンスカイ」航空協議が調印して以来、双方の人的往来は飛躍的に増加し、今では週に四〇〇便の飛行機が往来し、今年は台日間の旅行者数は合わせて年間四〇〇万人の大台を突破できる見込みです。

東京スター銀行がCTBS(中國信託商業銀行)グループの一員になったのも両国の調印した「金融監督監理協力覚書」の成果です。

地方交流に関しても、森田千葉県知事や佐竹秋田県知事が先(一〇)月訪台してきたばかりです。日本の各地方自治体も台湾との交流に積極的に推進されています。地方議員・地方公務員・青少年交流等各方面で台湾との交流を推進していただいています。本当に嬉しく思い、有難く思っています。

Q. 今、台湾映画が日本で注目されていますね……

A. 今年二月に台湾で公開され、空前の大ヒットを記録した映画があります。「KANON」というタイトルで、

一九三一年、日本統治時代の台湾から甲子園に出場し決勝まで勝ち進んだ、日本人・台湾人・台湾原住民による「嘉義農林学校」野球部の感動の実話です。

上映時間は三時間半とかなりの長編ですが、時間の長さを全く感じさせません。劇中の時代が日本時代ということもあり、セリフの多くは日本語のため、中国語や台湾語がわからなくても十分楽しむことができますよ。来年一月に日本でも公開されます。ご覧になられることをお勧めします。

Q. 張部長さんは日本の各都市を訪問されましたか？

A. 私は今までに、日本全国の四七都道府県に三回以上行きました。

当代表処の沈代表も日本各地を訪問されることを楽しみにされており、すでに四〇都道府県を訪問されています。

Q. 台湾のお方は日本語がお上手ですね？

A. 台湾のほとんどの大学に日本語学科があります。第二外国語として日本語が一番選ばれています。又、国立台湾大学日本語学科は英語学科よりも人気が高く、入試が難しいと言われています。

Q. 失礼ですが：：ご主人のお話を：：？

A. 主人は大学院時代のクラスメートです。初恋で大恋愛結婚です。（一同笑）

Q. 外交官として長年やってこられました：：

A. 外交官として、たくさん素晴らしい人々とお会いしてきました。この仕事を通じて、さまざまな感動的瞬間に出会えるのが私の仕事のエネルギーの源です。私はそうした瞬間瞬間に、この仕事へのやりがいと人生の生きがいを感じております。

台湾と日本は、自由・民主主義・人権・法治など、お互いに価値観を共有しています。これらを踏まえ、台日共通の課題に知恵を集めて協力し、双方の友情がより強固になることを期待しています。台湾と日本の一層の友好と発展に尽力できるように努力いたします。

これからもよろしくお願い申し上げます。

インタビューを終えて

実は、季刊「亜東」にこの様な記事を掲載するのは初めてであったので、大変緊張して臨んだインタビューでした。

しかし、張部長のユーモアに満ちたアットホームな雰囲気の中に、日台関係の更なる構築に向けた想いも感じることできた貴重なひとときでした。

さて、二〇一一年日本の国会で成立した「海外美術品等公開促進法」（大江会長にも日華懇議員として尽力戴きました。）を契機に、今年東京と福岡で開催されている台北・国立故宫院の「神品至宝」展。

その返礼として、二〇一六年には台湾の国立故宫博物院で

「日本宮廷美術コレクション」展が開催予定です。

また、台湾から一〇年以上のラブコールを受けていて、やっと実現した宝塚歌劇団の公演は大好評に終わり、来年八月六日からの公演が既に決定しているほどのです。

こうした文化面の交流だけではなく、昨年は、「台日電子商取引協議」「台日鉄道交流協力覚書」「台日航空機搜索救難協力協議」「台日特許等優先権書類電子的交換覚書」「台日薬事規制協力覚書」「台日金融監督監理協力覚書」など六つの重要な取り決めに調印し、経済協力を着実に進めてきた結果、日台間の貿易額は、六二三億ドルを越えました。

今後は、「経済連携協定」(EPA)や「二重課税回避協定」(DTA)の締結が両国間の課題となっています。

また、日本としても、台湾の「環太平洋パートナーシップ協定」(TPP)や「東アジア地域包括的経済連携」(RCEP)参加の後押しをすることが、日台の経済貿易関係の強化にも有益であり、より一層の互恵関係の構築にも寄与するものと思います。

「台日漁業協儀」締結では、台湾の方々の「日本は友好だけど、何をしてくれたの…?」の想いに応えることのできた良い例です。

これからも、「真の友・台湾」との様々なレベルでの交流の推進と協力をともに、東シナ海の平和へのイニシアチブを積極的に進められればと思う次第です。

*平成二十六年度台湾訪問の旅

当協会では、アジアの架け橋としての役割、会員各位の協力を得て、毎年台湾の旅を実施しております。

本年度(二十六度)も年間事業計画に基づく「日本、台湾親善交流の旅」を大江会長を団長に十五名の訪問団を組織し、次のとおり実施した。

出発：十月二十三日(木) 中華航空CI223便

羽田発〇七・一〇 台北着 一〇・〇〇

帰国：十月二十五日(土) 中華航空CI222便

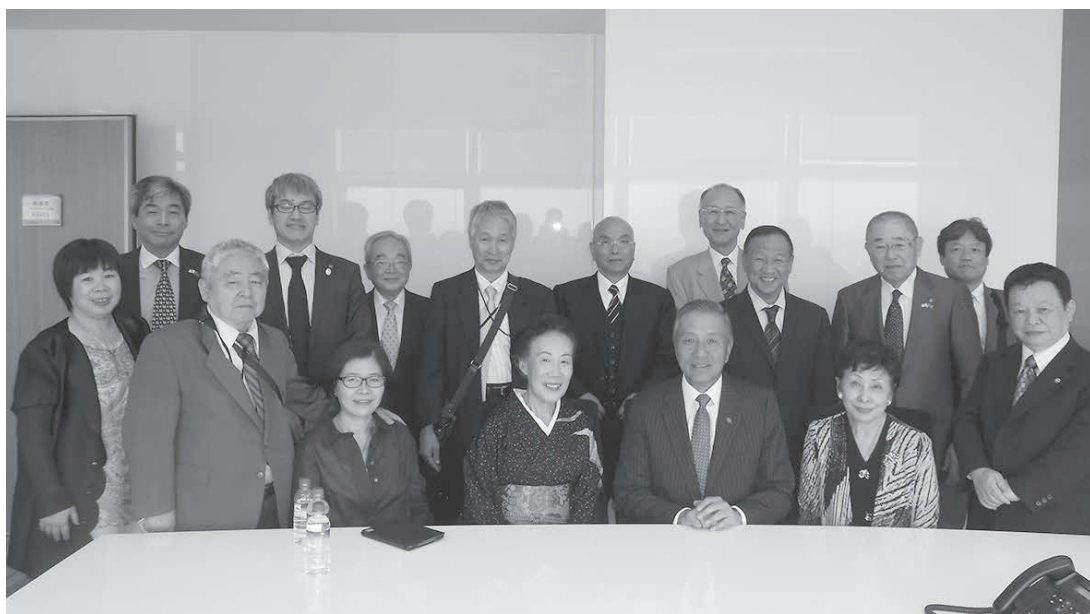
台北発 一八・二〇 羽田着 二一・五五



2014年10月24日 台北賓館見学

一般社団法人亜東親善協会平成26年度年度訪台団 日程案

日 付	都市名	時 間	交通機関	摘 要	食 事
1 10月23日 (木)	東京（羽田）発 台北 着	5：30 7：10 9：40 10：00 10：40 12：30 19：00	航空機 専用車	羽田空港中華航空カウンター前集合 中華航空 CI-223便にて空路、台北へ 松山国際機場着 現地参加者松山国際機場到着ロビー前集合 中国信託商業銀行 馮寄台国際事務最高顧問 表敬 亜東関係協会羅坤燦秘書長主催昼食会 大倉大飯店 亜東親善協会主催懇親会 【台北國賓大飯店 泊】	昼：○ 夕：○
2 10月24日 (金)		10：00 12：00 14：00 15：30 18：30	専用車	ホテルにて朝食 ホテル発 台北賓館見学 昼食鼎泰豊101 総統府 馬英九総統表敬訪問 交流協会台北事務所 沼田幹夫代表 表敬訪問 夕食場所大三元 【台北國賓大飯店 泊】	朝：○ 昼：○ 夕：○
3 10月25日 (土)	台北市 松山国際機場 東京（羽田）着	11：30 15：00 18：15 21：55	専用車 航空機	ホテルにて朝食 ホテル出発 新竹寶山ゴルフ場内にて昼食 中華航空 CI-222便にて空路、帰国の途へ 羽田空港着。 着後解散。	朝：○ 昼：○



2014年10月23日 中国信託商業銀行 馮寄台国際事務最高顧問（元 駐日代表）表敬



2014年10月23日
亜東関係協会羅坤燦秘書長主催昼食会
大倉大飯店



2014年10月24日 交流協会 表敬訪問



花木出副代表 沼田幹夫代表 小松庸人総務室長



2014年10月25日昼食新竹寶山ゴルフ場



2014年10月24日 夕食会 大三元

馬英九總統が大江康弘・会長ら「亜東親善協会」の訪問団一行と会見

一〇月二四日、馬英九總統は大江康弘会長をはじめとする「亜東親善協会」の訪問団一行と会見し、台日間の協力の機会が引き続き増加し、両国間の友好関係がより一層深まることを願った。

馬總統はあいさつの中で、「私は總統就任後、台日関係を『特別なパートナーシップ』と位置付けた。近年、双方間の経済・貿易、文化、青年交流、観光などの分野における交流が活発且つ密接になっており、きわめて大きな成果を収めた。両国関係はこの四〇年間に於いて、最良の状態にある」と強調した。

台日間の経済・貿易面での往来については、「現在、台湾にとり日本は第二位の貿易パートナーであり、日本にとつても台湾は第四位の貿易パートナーである。二〇一三年における両国の貿易総額は六〇〇億米ドルを上回った。また、この六二年間、日本から台湾への直接投資額は約一七六億米ドルで、海外から台湾への投資額は日本が最も多い。台湾からの対日投資額も約三五億円で、その額も毎年徐々に増加しており、双方の経済・貿易関係が密接で



あることを十分に証明するものとなっている」と説明した。

今後の経済・貿易のビジョンについては、「両国間で『経済連携協定』（EPA）および二重課税回避などの『租税条約』（DTA）に調印できるようにしたい。また、台湾の『環太平洋パートナーシップ協定』（TPP）への参加についても、日本の継続的な支持を強く期待している」と述べた。

観光交流面では、台日間を往来した旅行客数が、馬總統就任前は年間約二五〇万人であったが、二〇一三年には三七六万人へと増加していると説明し、「今年の台日双方間の旅行客数は四〇〇万人を突破することが期待される」と強調した。

文化交流面において、馬總統は「国立故宫博物院」（以下、故宮）の貴重な文物が今年六月下旬より、「神品至宝」展として初めて日本で展示され、二〇一六年には東京国立博物館および九州国立博物館の国宝級の文物が故宮南院で開催予定であることに言及し、「これらの交流は両国民がお互いの文物および歴史について、更なる理解を深めることになり、きわめて大きな意義がある」と期待の意を示した。

その上で、「近年、台日両国は官民間問わず、双方間の交流は以前と比べ密接であり、このプラスの発展は大いに評価すべきものである。亜東親善協会の訪問団各位が今後も引き続き、二国間の協力推進および両国の友好関係増進のためにご尽力いただけるようお願いしている」と述べた。

（中華週報より転載）

台湾概況

台湾に関する基本情報	
面積	36,191平方km 【参考】九州は42,000平方km
人口(2013年12月末)	2,337万人
民族	漢民族(98%)、14の原住民系民族(2%)
主要言語	中国語、台湾語、客家語、その他原住民の言語
宗教	仏教、道教、キリスト教
GDP(2013年)	5,154.98億ドル
対前年比	2.11%増
一人当たりGDP(2013年)	20,958ドル
主要産業	電気・電子、鉄鋼金属、繊維、精密機械
主な台湾企業	鴻海精密工業(HONHAI Precision Industry)、宏達国際電子(HTC)、廣達電腦(QUANTA)、宏碁電腦(ACER)、華碩電腦(ASUS)、台湾積体電路製造(TSMC)、聯華電子(UMC)、捷安特自転車(GIANT)
政治体制	- 直接選挙で總統選出(任期4年:再選1回まで) - 行政院長は總統が任命 - 一院制(立法委員定数113、任期4年)
与党	中国国民党(KMT)
總統	馬英九(ば・えいきゅう: MA, Ying-jeou)
副總統	吳敦義(ご・とんぎ: WU, Den-yih)
行政院長	江宜樺(こう・いか: JIANG, Yuah)
外交部長	林永榮(りん・えいらく: LIN, Yung-lo David)
立法院長	王金平(おう・きんぺい: WANG, Jin-pyng)



台湾の地方自治体(県・市)の首長 (2012年5月時点)			
北部	台北市長 郝龍斌(国)	基隆市長 張通安(国)	
	新北市市長 朱立倫(国)	宜蘭縣長 林聰賢(民)	
中北部	桃園縣長 吳志揚(国)	新竹市長 許明財(国)	
	新竹縣長 邱鏡淳(国)	苗栗縣長 劉政鴻(国)	
中部	台中市長 胡志強(国)	彰化縣長 卓伯源(国)	
	南投縣長(代理) 陳志清(国)		
南部	雲林縣長 蘇治芬(民)	嘉義市長 黃敏惠(国)	
	嘉義縣長 張花冠(民)	台南市長 賴清德(民)	
	高雄市長 陳菊(民)	屏東縣長 曹啓鴻(民)	
東部	花蓮縣長 傅維賢(無)	台東縣長 黃健庭(国)	
離島部	澎湖縣長 王乾俊(国)	金門縣長 李沃士(国)	
	連江縣長 楊綏生(国)		

2. 台湾経済

【馬英九總統の633経済目標(2008年就任時)】

- ①年間経済成長率を6%
- ②国民一人当たりの国民所得(GNP)を3万米ドル(2016年までに)
- ③失業率を3%以下(2012年までに)

⇒ 実際の推移

	年間経済成長率	一人当たり国民所得(GNP)	失業率
2008年	0.73%	17,833米ドル	4.14%
2009年	▲1.81%	16,901米ドル	5.85%
2010年	10.76%	19,090米ドル	5.21%
2011年	4.19%	20,625米ドル	4.39%
2012年	1.48%	21,082米ドル	4.24%
2013年	2.09%	21,558米ドル	4.18%
2014年	3.41%(見通し)	22,128米ドル(見通し)	
2015年	3.51%(見通し)	22,972米ドル(見通し)	

【国家発展の5つの柱(2012年2期目就任時)】

- ①経済成長の原動力の強化(ECFA後続交渉、FTA、TPP等)
- ②雇用の創出と社会における公平と正義の定着(経済成長の追求、能力に見合った課税等)
- ③低炭素とグリーンエネルギーの環境づくり(グリーンエネルギー産業、エネルギー価格の合理化等)
- ④文化的国力の構築(文化的価値・コンテンツの経済的価値への転換等)
- 2 ⑤積極的な人材育成と招聘(高校教育無償化等、世界の優秀人材の招き入れ)

3. 人的往来・経済関係

【人的往来】

●人的往来

日本人訪台者:142万人(1,421,550人)(2013年、前年比0.8%減)(交通部観光局出典)

台湾人訪日者:221万人(2,210,800人)(2013年、前年比50.8%増)(日本政府観光局(JNTO)出典)

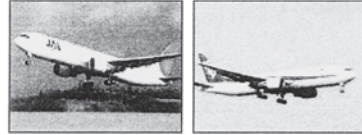
●長期滞在者

在台邦人:16,725人(2014年7月)

在日台湾人:33,322人(2013年12月)

●日台間の定期旅客便:460便/週(2014年5月実績)

●日台間の定期航空路線:20路線(2014年5月実績)



【経済関係】

●貿易(2013年):貿易額 623.9億ドル(台湾財政部)(台湾から見て第2位)(日本から見て第5位※貿易統計)

※うち日本からの輸入431.7億ドル/日本への輸出192.2億ドル

●投資(2013年):台湾への直接投資 4.1億ドル(台湾から見て第3位)/618件(台湾から見て第1位)

日本への直接投資1.7億ドル(台湾から見て第6位)/25件(台湾から見て第4位)

●在台日系企業数:1,119社(2013年度)

※台北市工商会等の会員企業は591社(2013年末)

【文化交流等】

●台湾から日本への留学生数:4,719人(2013年5月)、日本から台湾への留学生数:2,861人(2011年)

※在日外国人留学生数 第1位:中国(81,884人)、第2位:韓国(15,304人)、第3位:ベトナム(6,290人)、第4位:台湾(4,719人)

3 ●姉妹(友好)交流都市等 提携数:30組(2014年1月1日)



留日東京華僑婦女会代表団一行

事務局だより

*八月十二日(火) 新法人の移行に伴う理事、役員の登記完了
新法人への移行後、最初の任期満了に伴う役員改選が行われ、次の通り承認されたので登記を完了した。

再任された理事十八名・再々任一名・新理事八名・辞任された理事二名

*九月九日(火) 定例理事会の開催

*九月十九日(金) 李登輝元総統来日

日本李登輝友の会の招聘により、十九日から一週間の予定で六度目の来日をはたした。今回は家族同伴で大阪と東京でそれぞれ二回の講演が行われた。

*十月七日(火) 慶祝双十国慶節を祝う集い
中華民国一〇三年国慶節の祝賀レセプションがホテルオークラ本館一階「平安の間」で開催された。

(主催:台北駐日経済文化代表處)

当協会から祝意表し理事多数が参席した。

十月十日(金) 本国(台湾)で開催された国慶節祝賀大会には、海外貴賓四〇〇余人が参列、日本からは超党派議員連盟、「日華議員懇談会」の平沼赳夫会長率いる代表団が出席又華僑代表団の一員として当協会理事で、会長を務める留日婦女會代表団呉淑娥会長一行も出席した。

年内行事予定

*十一月十八日(火)

台湾留学生の国会見学

*十一月十九日(水)

定例理事会

*十二月四日(木)

顧問、理事、役員他研修会

友情と信頼
一般社団法人 亜東親善協会

只今、会員を募集しております。

入 会 の 手 続 き

1. 事務局所定の入会申込書を提出していただきます。
2. 入会は、協会理事会の議を経て承認されます。

年会費	法人会員	50,000円
	賛助会員	30,000円
	個人会員	10,000円

季 刊 亜 東 (アジアの架け橋) 平成26年 秋季号 (No.51)

発行日 : 平成26年11月1日

発行所 : 一般社団法人亜東親善協会

編 集 : 崎谷秀彦

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印 刷 : ヨシダ印刷株式会社

台湾の魅力を、あなたにも。 チャイナ エアライン



チャイナ エアラインで、台湾の旅へ。

台北101や日月潭、阿里山など、見どころにあふれた台湾。

日本から飛ぶなら、チャイナ エアラインで。行き届いたサービス、快適なひととき…。

台湾を訪れるあなたを、心を込めたおもてなしで歓迎いたします。